

【71】新河岸の河岸場跡周辺

新河岸川舟運は、川越城下で起きた寛永の大火（1638）の際に仙波東照宮の再建資材を運搬したのが始まりといわれ、川越藩主松平信綱によって整備されました。川越五河岸一上・下新河岸、牛子、扇、寺尾には多くの問屋が軒を並べ、江戸と川越を結ぶ物流の一大拠点でした。現在は菜の花が満開になる季節には地域の方々にによって、舟遊びのイベントが催されています。



下新河岸日枝神社・観音堂(旧観音寺)

日枝神社境内には、日枝神社と観音堂が同居しています。これは、明治3年（1870）の新河岸大火の影響から神仏分離を免れたためといわれています。元々は、蓮華院観音寺の境内に日枝神社が神仏習合思想により一体となって存在していました。しかし、後に観音寺が衰微し観音像のみ安置していたため、観音堂と呼ばれるようになり、日枝神社境内に観音堂が存在するような姿になっています。

また、境内地には、英一
笑（はなぶさいっしょう・江戸時代後
期の画家）による仁王像石碑
や馬頭尊などがあります。



伊勢安（いせやす）

下新河岸の船問屋だった伊勢安（齋藤家）には、新河岸川舟運が盛んだったころの面影が残されています。

現在の母屋は平成11年（1999）に改築されたもので、明治3年（1870）4月の新河岸大火以降に再建された母屋と同様の外観を持ちます。帳場や民具類も当時を髣髴させます。奥には元禄期（1690年代）に建てられた素麺蔵や、文政期（1820年代）の米蔵などがあり、帆柱などの船具も残されています。



ふじみ野市立福岡河岸記念館

福岡河岸では享保18年（1733）ごろから福岡村の人々が回漕業を営み、安永2年（1773）に3軒の船問屋が幕府から公認されました。福田屋は七代仙蔵が天保2年（1831）に問屋株を借り受け、舟問屋を開業しました。記念館は福田屋



の建物で、明治中期の回漕問屋の様子を再現し、文庫蔵内部の展示室では舟運と問屋の暮らしを展示しています。また、遠方からの客をもてなしたという明治30年代築の木造三階建の離れは公開日が限られていますが、一見の価値あります。



迅速測図(部分)

埼玉県武蔵国入間郡新河岸古市場村(復刻版)明治14年

陸軍参謀本部が作成した地図で、急いで作成したため迅速測図と呼ばれています。新河岸川と各河岸場が描かれ、仙波河岸から古市場・福岡河岸までの間の新河岸川の蛇行やため池の様子、また、屋敷の密集ぶりや道の様子などがうかがえます。

【72】寺尾の日枝神社

寺尾の日枝神社は、ふじみ野市との間の沖積地を一望する大地の縁辺部に南面して鎮座しています。神楽殿の背後には、寺尾城の物見の代わりをしたというマキの大木があります。寺尾城は、後北条氏の家臣諏訪右馬亮（すわうまのすけ）がいたとの説もありますが、定かではありません。神社の北側にある天台宗寺尾山蓮乗院勝福寺（しょうふくじ）は慈覚大師円仁（じかくだいしえんにん）の開創、建武元年（1334）秀海法印（しゅうかいほういん）の中興です。阿弥陀堂の脇には建長3年（1251）の銘が入った阿弥陀三尊種子板碑があり、市内では最も古い時期のものです。肉が厚く大型で、山形が際立って鋭角的などの特徴が見られます。

